

## (2) 東北



東北地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

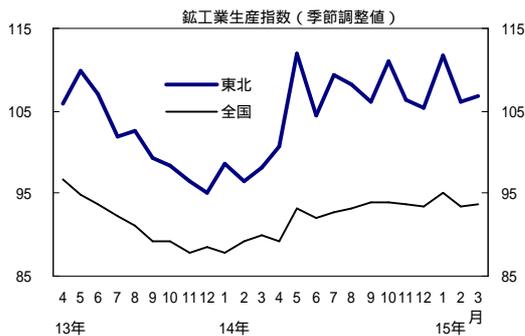
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成15年2月)	今回(平成15年5月)	
住宅建設	減少	更に減少	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電気機械は、パーソナルコンピュータの増加により1月に大きく増加したが、2月にはその反動減となり、1～3月としてはほぼ横ばい圏内の動きとなった。食料品・たばこは、冷凍水産食品を中心に弱含んでいるものの前期比で見れば増加となった。一般機械は、産業用ロボットなどが増加したものの前期比では反動減となった。繊維は、1月は増加したものの、2月は減少に転じ、弱い動きが続いている。窯業・土石は、電子部品向けファインセラミックスが好調を続けており、全体としても増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電気機械	34.8	1.2	0.6	0.3	1.3
食料品・たばこ	9.3	3.1	2.2	1.5	7.6
一般機械	7.5	17.6	4.7	3.8	2.1
繊維	6.7	1.1	1.8	5.0	7.9
窯業・土石	6.3	0.8	3.7	4.3	3.2
鉱工業	100.0	0.3	0.6	1.0	0.9

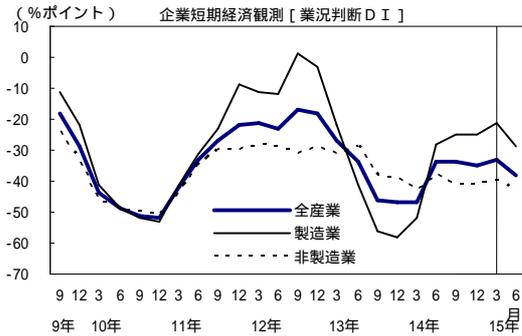
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1～3月期は速報値。

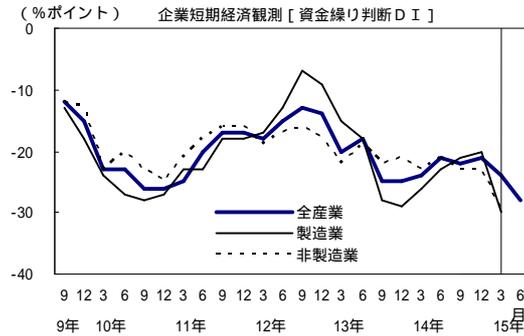
(備考) 1. 平成15年3月の東北は速報値。

2. 東北は平成7年基準(左目盛) 全国は平成12年基準(右目盛)。

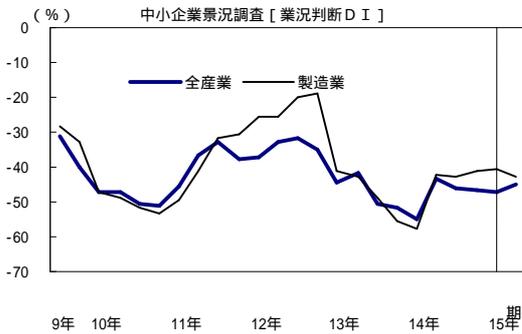
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。  
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年6月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「携帯電話用の部品は、好調が持続しており、しばらくはこれが続く。自動車部品では、一部の取引先の販売に陰りが出てきており、その影響が出てくる(一般機械器具製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

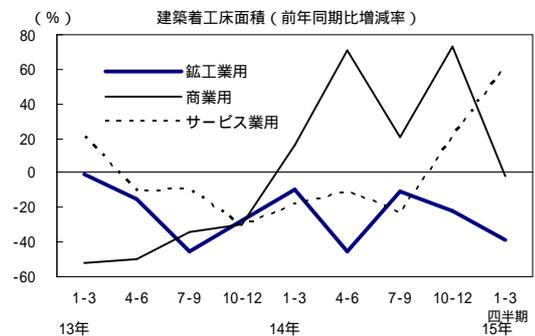
(3) 設備投資の14年度実績見込みは13年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (3月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績見込み	15年度値
全産業	11.9( 0.1)	4.2
製造業	20.0( 0.4)	3.4
非製造業	3.2( 0.5)	4.8

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。



## 2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

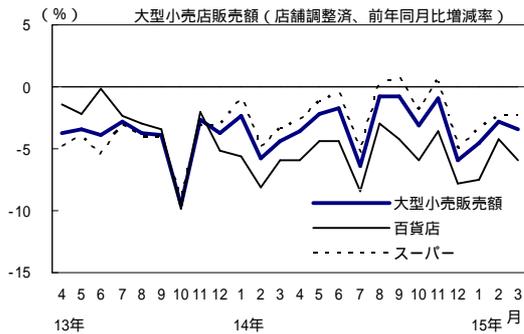
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、身の回り品の一部に動きがあったものの、衣料品を中心に不振が続いたこと、1月は大雪、2月と3月は天候不順の影響も出たことから、引き続き前年を下回っている。

スーパーは、主力の飲食料品については、野菜の相場高の影響や、3月に酒類等に動きがみられたものの、総じてみれば前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(4月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

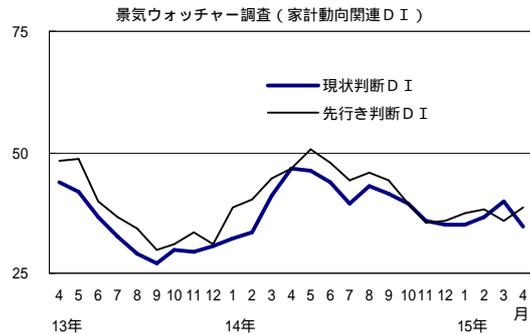
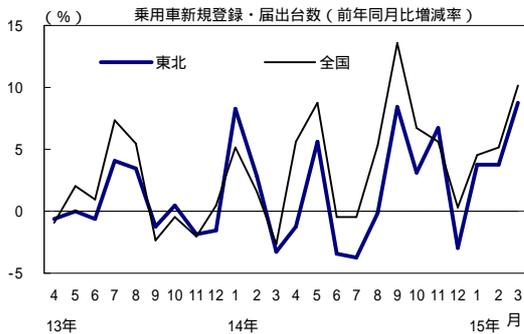
「衝動買いが全くといっていいほど無くなっている。壊れるまで使い、買い替えのサイクルが伸びている。気に入ったものや欲しいものがあったても、まだ使えるということで、成約に結びつかない(その他専門店[家電])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比増減率、単位：%)			
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月
大型小売店	2.5	2.8	3.6	3.7
百貨店	4.9	5.5	6.0	6.1
スーパー	1.4	1.6	2.4	2.7
乗用車	0.0	1.7	2.5	6.3
景気ウォッチャー	45.6	41.1	36.8	37.1

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

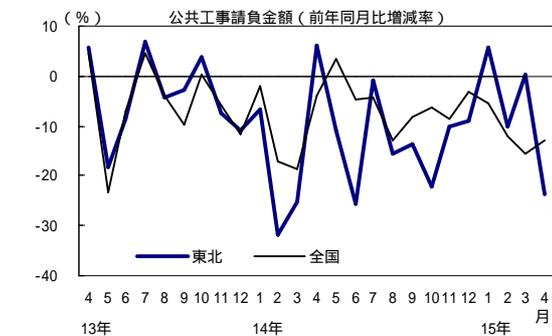
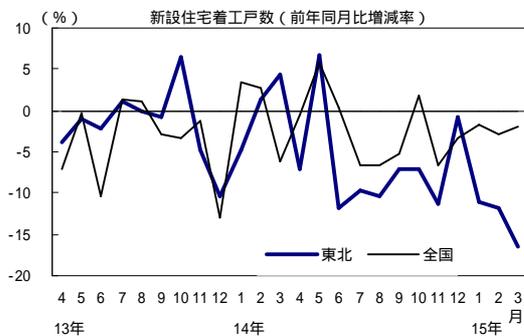
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は更に減少している。

分譲が前期の反動から大きく減少し、貸家も大きく減少したことから、全体でも更に減少している。

(3) 公共投資は14年度累計で見ると13年度を下回っている。

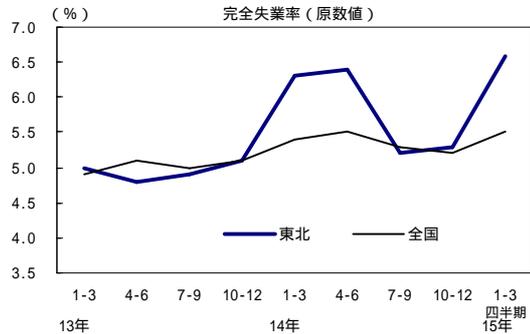
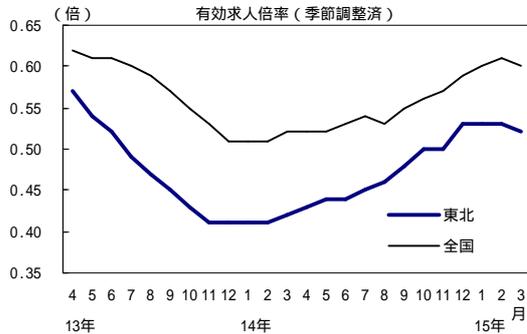


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇傾向に頭打ちがみられる。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月調査)[雇用関連(現状判断)]

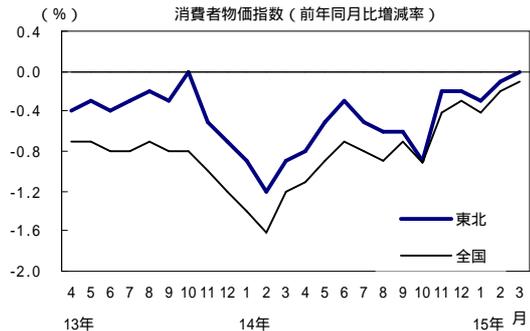
「企業の雇用マインドが回復するに至らず、求人数が停滞している。この春卒業した高校生の就職状況も悪い結果となっている(職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年4-6月	7-9月	10-12月	15年1-3月	15年4月
倒産件数	399	366	377	329	92
(前年比)	1.8	2.5	2.1	18.2	33.8
負債総額	1,372	1,282	2,097	1,545	419
(前年比)	24.3	35.6	80.5	5.7	48.9



景気ウォッチャー調査(4月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・年度末から今期初めにかけて、光学系のハイテクメーカーに増員などの動きがあり、やや好転している(人材派遣会社)

<先行き>

- ・アジア地区ではSARS問題があり、アジアでの生産に影響が出てきて、アジア向けの輸出が減少する可能性がある(一般機械器具製造業)

